

2023年3月期 第3四半期 決算説明会資料

2023年2月20日



証券コード：4461（東証プライム）
第一工業製薬株式会社

本日のアジェンダ



- 1. 2023年3月期 第3四半期 連結決算概要 P. 3**
- 2. 2023年3月期 通期 業績見通し P. 7**
- 3. 来期以降の成長戦略 P.11**
- 4. WE SHALL OVERCOME P.17**

1. 2023年3月期 第3四半期 連結決算概要

連結 業績の概要（前期比較）



増収減益：製品の価格転嫁が進み増収も、原材料価格の高騰が利益を圧迫

（単位：百万円）

	22/3月期 第3Q累計	23/3月期 第3Q累計	前期比増減	
			金額	増減率
売上高	46,697	49,098	2,401	5.1%
営業利益	3,725	988	△ 2,735	△73.5%
経常利益	3,290	1,079	△ 2,210	△67.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,860	△ 395	△ 2,255	—

増収  **売上高**：海外向け難燃剤が大幅に伸長

減益  **営業利益**：原材料価格の高騰が価格転嫁を上回り減益、将来への投資となる研究開発費が増加

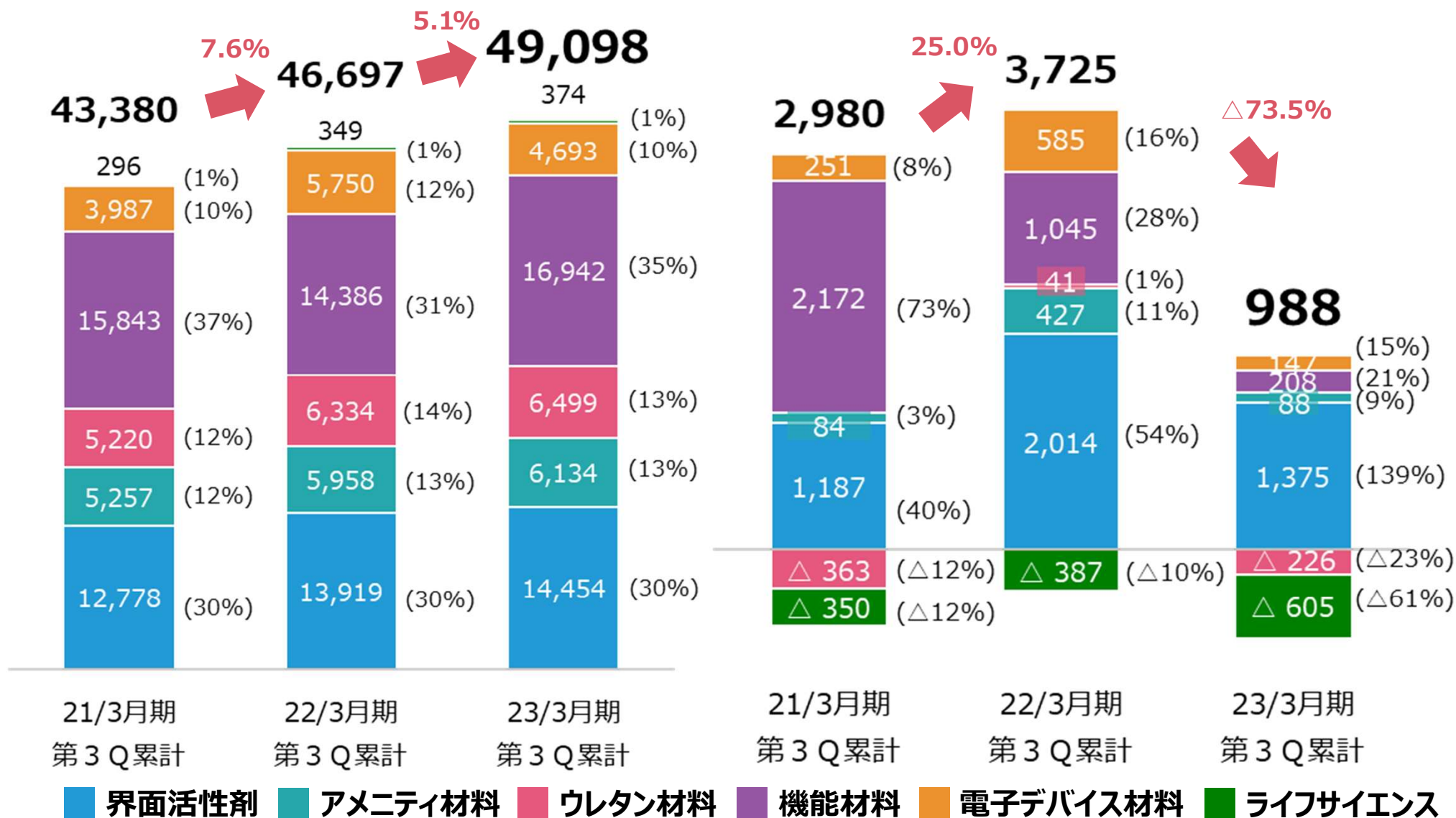
連結 セグメント別構成比の推移



() : 構成比

売上高
(百万円)

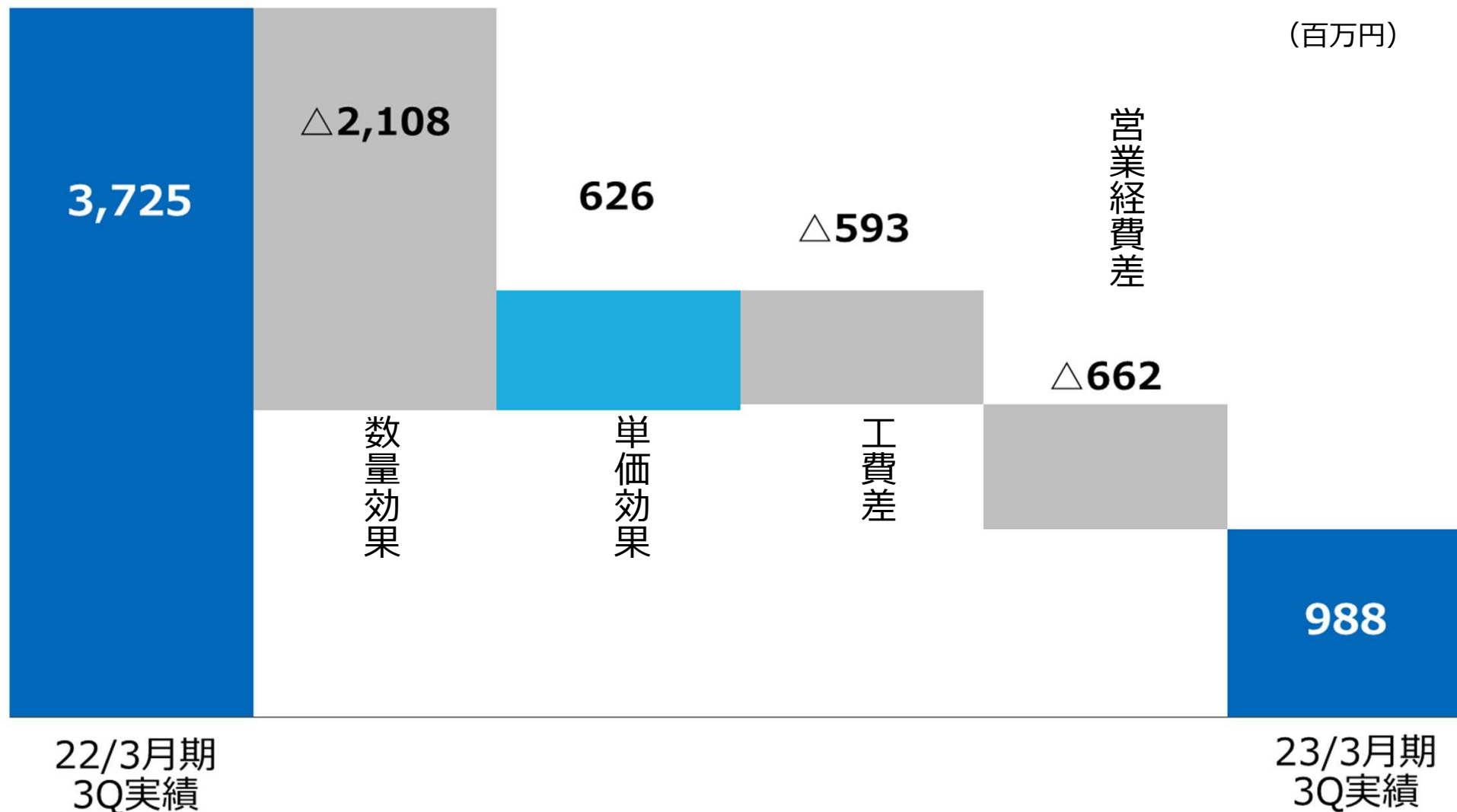
営業利益
(百万円)



2023年3月期 第3四半期営業利益増減分析

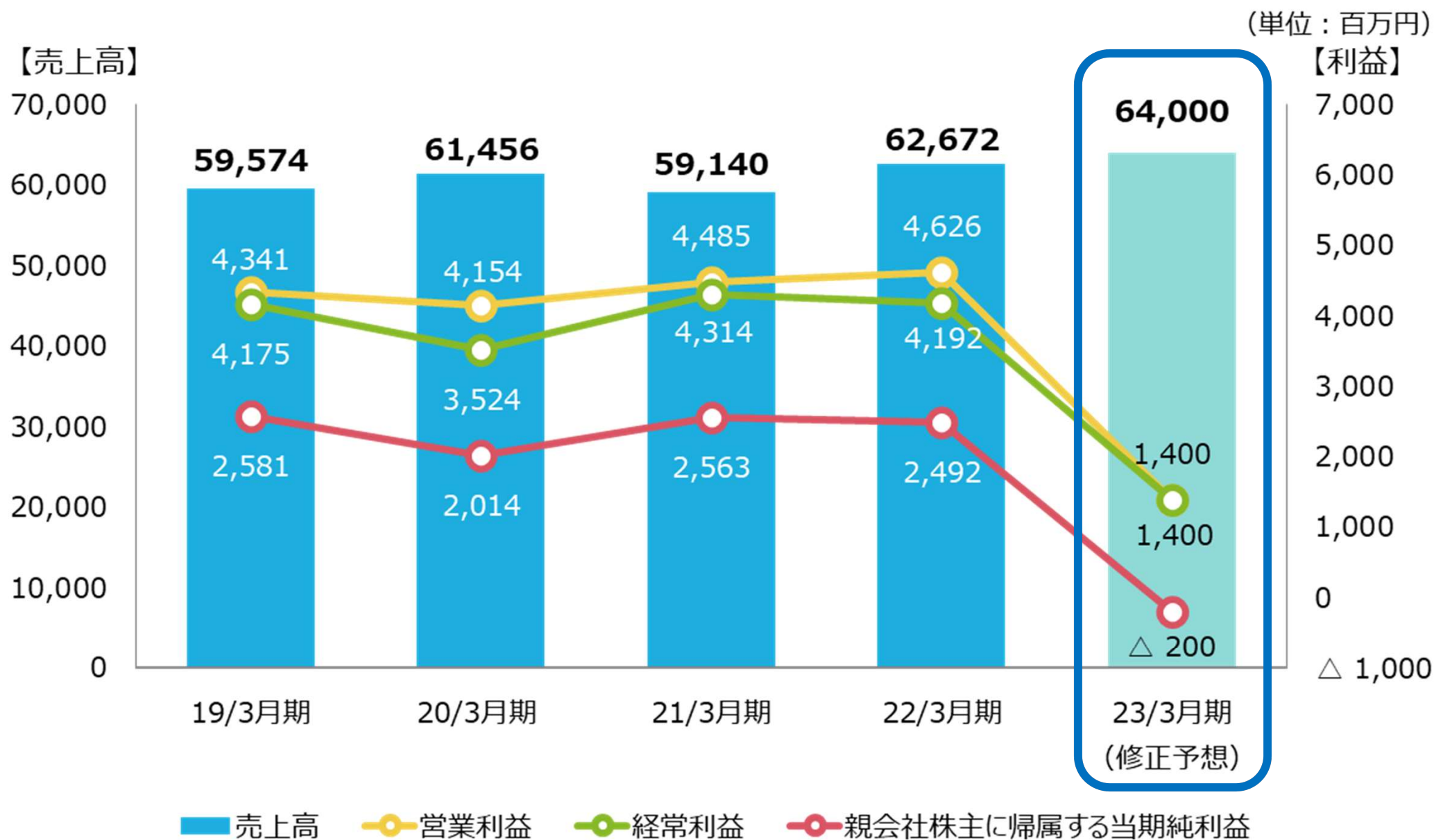


* 界面活性剤、ウレタン、機能材料など販売数量減
 * 原材料価格の高騰による値上げ活動
 * 工場稼働率の低下による経費増加
 * 販売活動及び研究開発費などの増加



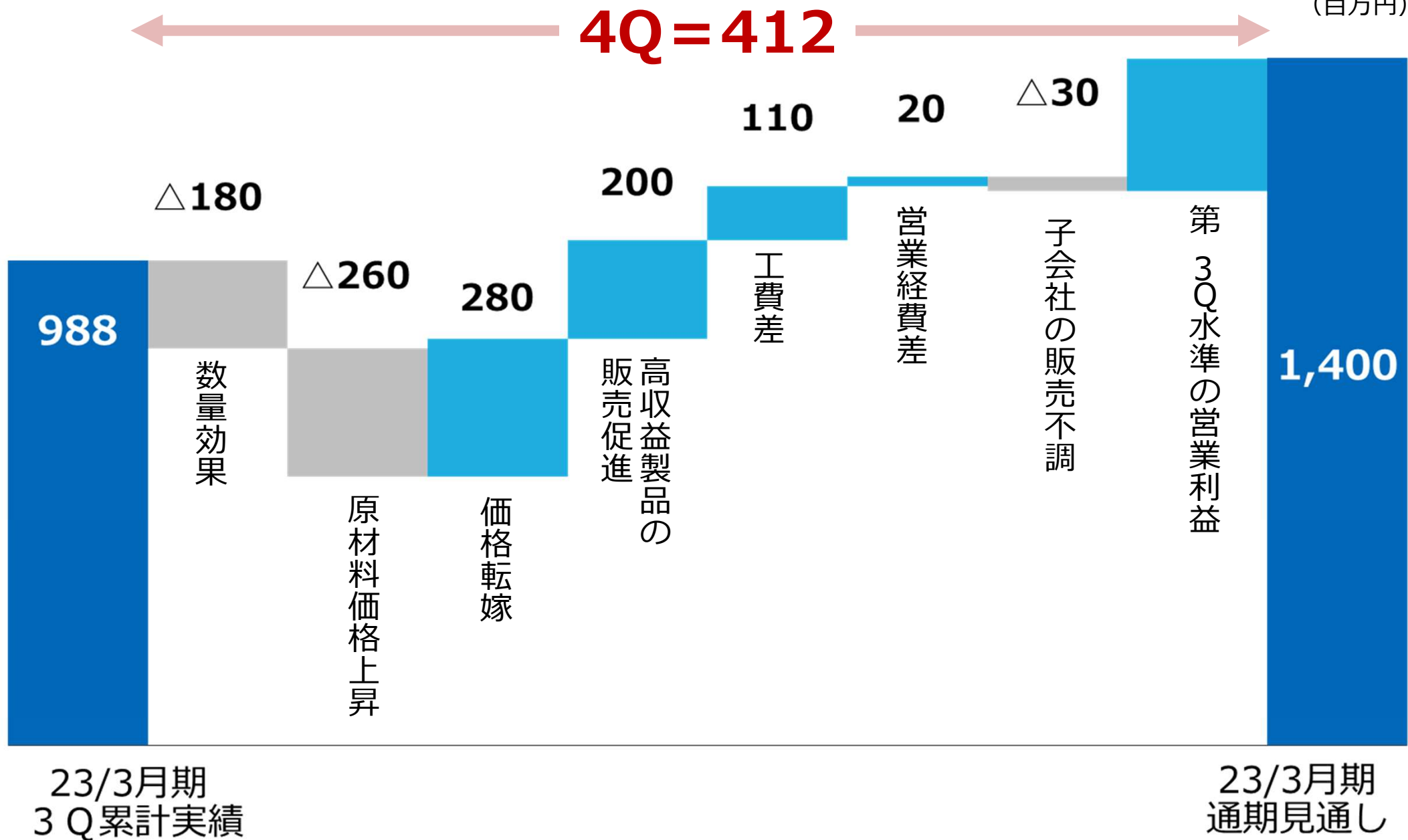
2. 2023年3月期 通期 業績見通し

連結 連結業績推移および予想



2023年3月期 通期営業利益見通し

270 
(百万円)



2023年3月期通期見通しに対する増減要因



内 訳			金額(億円)	備 考	関連するセグメント					
2023年3月期 第3Q営業利益(実績)①			9.9							
2023年3月期 第4Q営業利益 (見通し)	注力事項	数量効果	△1.8	・市況悪化に伴い数量ダウン	界		ウ	機		
		原材料価格上昇	△2.6	・購買差損	界		ウ			
		価格転嫁	2.8	・価格転嫁推進	界	ア	ウ	機		
		高収益製品の 販売推進	2.0	・光硬化用材料販売増 ・公共工事用減水剤販売増			ウ	機		
		工費削減	1.1	・製造経費圧縮及び工場稼働率向上			ウ	機		
		営業経費	0.2	・人件費等々の経費圧縮 ・原材料購入価格の圧縮 ・研究開発費を来期へ振り替え ・在庫圧縮	界	ア	ウ	機	電	ラ
		子会社の販売 不調	△0.3	・連結子会社不調						
		小計②	1.4							
	営業利益③ (第3Q10-12月水準)		2.7							
第4Q合計(① + ② + ③)		4.1								
2023年3月期 通期営業利益(目標値)			14.0							

3. 来期以降の成長戦略

- ✓ セカンド・ネクスト
- ✓ ライフサイエンス

組織および事業構造の改革 市況に左右されにくいポートフォリオの再構築

✓ 既存事業・重要顧客を起点にした事業拡大 “セカンド・ネクスト”

- 電子・情報、環境・エネルギー分野へ注力
- 霞工場の稼働率UP

✓ ライフサイエンス事業の実績化

- 機能的表示食品商品化と販売拡大（BtoB・BtoC）
- 池田薬草事業拡大（BtoB）

<アクチャル（既存）製品・顧客を起点にしたネクスト（周辺）の事業展開>

実施内容	対象セグメント
光硬化樹脂用材料技術を活用した拡販	機
岩盤固結剤、減水剤の拡販 ・インフラ整備、公共工事受注獲得	ウ
重要顧客の課題解決テーマ、周辺事業テーマの強化	界 ウ 機
各代理店の特長を活かした拡販戦略の見直し ・全国一工会の運用、再編 ・新規/既存製品、用途展開・海外向け開発の活性化	界 ア ウ 機 電
子会社新工場 ・大型新規テーマ遂行と安定供給および拡販 → 電子材料用途	界 機

<霞工場の稼働率UP>

実施内容	対象セグメント
光硬化樹脂用材料関連の横展開による拡販 ・特定顧客から他顧客への展開	機
特定顧客 IT・電子材料用途向け新規テーマ拡販 ・次世代新製品の開発 ・岩盤固結剤の拡販(補修工事需要増加に伴う)	界 ウ 機
電子・情報材料・自動車産業分野新規テーマの実績化 ・機能性ポリウレタン製品	ウ

<ライフサイエンス事業の実績化>

①「ナトリード」含有カニコハナサナギタケ冬虫夏草

認知機能分野で機能性表示食品の届出完了！

→ **2023/2/8 機能性表示食品届出が完了、消費者庁HPに公開**

届出番号：H950 <https://www.fld.caa.go.jp/caaks/cssc02/?recordSeq=42212050910103>

→ **2023年夏頃 新商品発売予定**

研究テーマ名	進捗状況
テストステロン（男性ホルモン）産生効果	臨床試験実施中。2023年下期以降論文発表予定。
睡眠の質改善効果	臨床試験実施中。2023年下期以降論文発表予定。
初期認知症患者対象特定臨床研究	実施中。2024年春頃、試験終了予定。
MCIおよび健常者対象大規模臨床試験	2023年春開始予定。2025年春頃終了予定。

③スダチン（池田薬草）機能性表示食品取得状況

・2022年11月 機能性表示食品届出の申請中。現在、消費者庁からの回答待ち。

④ BtoB 原料販売強化

活動内容	目標レベル
池田薬草 事業拡大 ・スダチ果皮エキス末（Sudachin®）の原料売り ・GMP設備を活かした医薬品中間原料の受託拡大 ・すだち精油(アロマオイル)など健康志向のアップサイクル商品開発	2030年 現売上高の3倍 ・設備増強によりさらなる拡大をめざす
冬虫夏草、ナトリド粉末の原料売り ・食品/飲料/健康食品などのメーカーへ販売	

⑤ BtoC 販売拡大（一般消費者向け）

活動内容	目標レベル
機能性表示食品冬虫夏草 23年夏頃発売予定	2024年3月期 2億円以上 ・中計終了までにセグメント黒字化をめざす
百貨店などのリアル販売強化（お客さまとの直接対話を重視）	
「天虫花草」シリーズ関連食品ラインナップ強化（通販サイト＆リアル販売） 和烏龍茶など 23年夏以降発売予定	
谷口キヨコ氏をライフサイエンス・アンバサダーに起用（PRや販促）	
消臭スプレー 23年夏頃発売予定 ・ゲンブ(株)消臭技術を活かし商品化。消臭ビジネスの展開を検討中。	
Loop The Kyoto(独自素材「SE配合」エシカル野菜ピュレ) 23年秋頃発売予定	

4. WE SHALL OVERCOME

1) 事業体質改善の歩み



SMART2030
(仮)

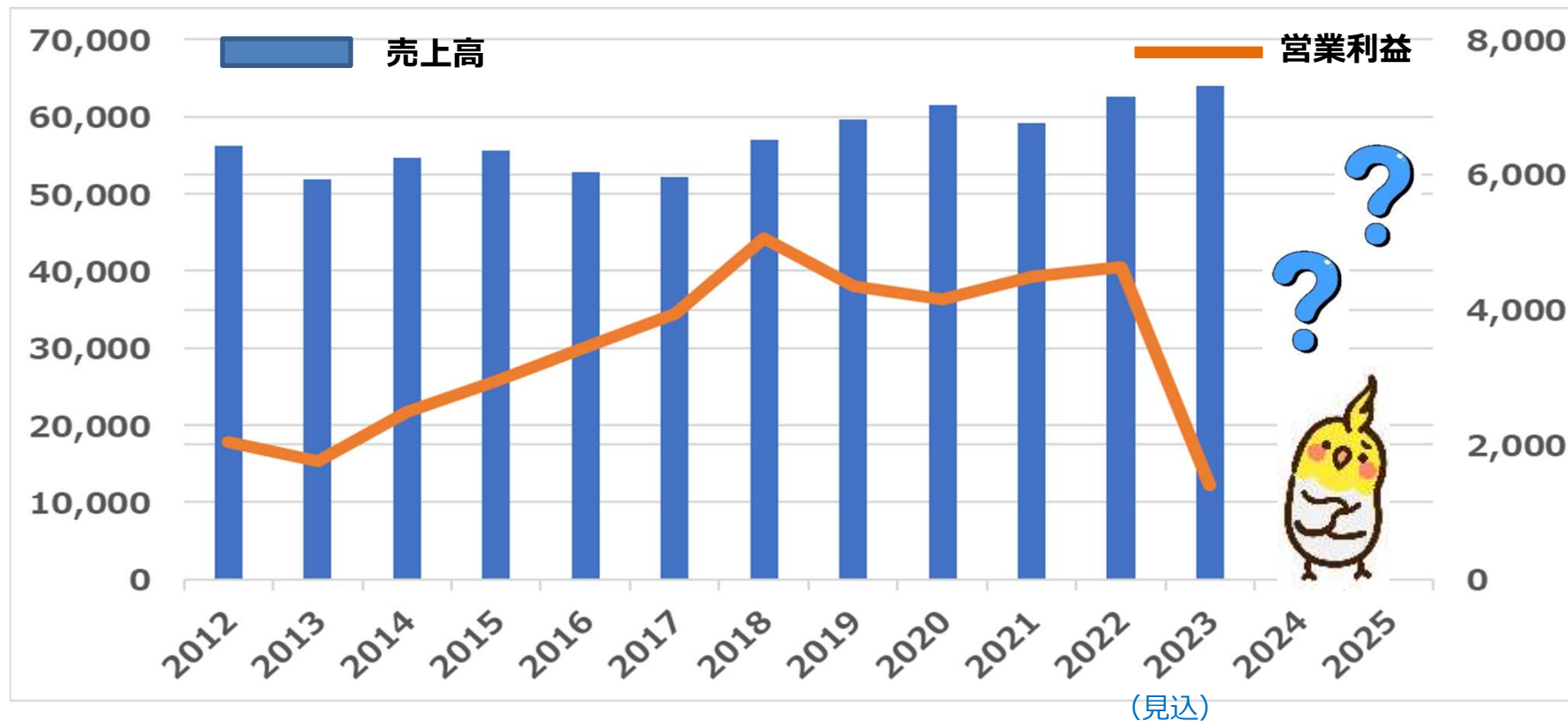


(2012/4-2015/3)

(2015/4-2020/3)

(2020/4-2025/3)

(2025/4-2030/3)



(単位：百万円)

2) 現状認識(財務体質の変化)



2022年3月 【単位：％】

2001年3月

48.5 (現預金 4.4)	69.6
51.5	
	30.4

(408億円)

総資産現預金比率	4.5%
流動・固定資産比率	94.4%
負債 比率	69.6%
(流動)	(51.2%)
(固定)	(18.5%)
資本 比率	30.0%



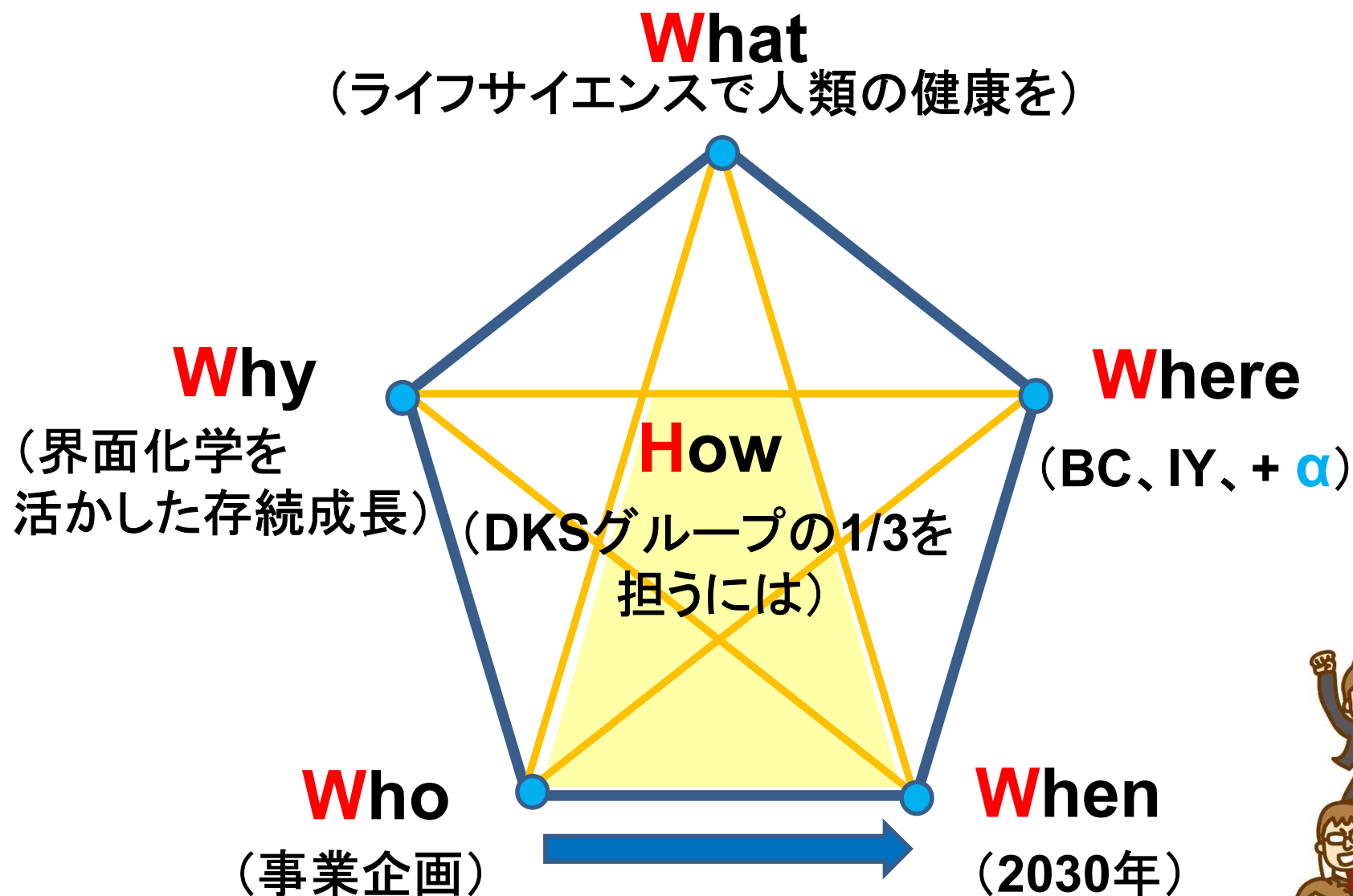
53.8 (現預金 14.1)	53.3
46.2	
	46.7

(864億円)

総資産現預金比率	14.1%
流動・固定資産比率	116.5%
負債 比率	53.3%
(流動)	(25.1%)
(固定)	(28.2%)
資本 比率	46.7%



3) WE SHALL OVERCOME



ライフサイエンスの事業モデル



この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。

それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、当社が計画、予測したものであります。

実際の業績などは、今後のさまざまな条件、要素によりこの計画などとは異なる場合があります、この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。

第一工業製薬株式会社

広報IR室 IRグループ

TEL: 03-3275-0654 E-mail: d-ir@dks-web.co.jp